

2021年度 神石高原学園 神石インターナショナルスクール 教育課程特例校評価(自己評価)

	評価区分	評価項目	実施内容・状況
日本語と英語によるイマージョン教育	実施体制	カリキュラムや全体運営、クラス運営を適切に進める体制がとれているか	<ul style="list-style-type: none"> ・全寮制という枠組みを生かし、内容や時間数に余裕を持たせて取り組むことのできる包括的なカリキュラムを作成している。 ・英語での教科指導では学習指導要領の内容事項が担保されるようIPC(International Primary Curriculum)と学習指導要領の内容をそれぞれすり合わせて検討し、7日間にすべてバランスよく配置されるように努めた。 ・社会科では校外学習を増やし、理科では本校の自然環境を生かした指導に挑戦することができている。また、日本人教員だけでなく、日本人スタッフとインターナショナル教員との連携もとれてきている。 ・1学級2担任制(インターナショナル教員と日本の教員)、寮でのカリキュラムを実施するハウスペアレント、学習支援員やサポートスタッフなど多くの教職員で指導カリキュラムの共通理解を図っている。実施する中で問題や課題となる点はすぐに検討し、年度途中であっても変更や訂正を加えて柔軟に対応できるように週に1度の全体ミーティングなどのコミュニケーションを重視している。
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか	<ul style="list-style-type: none"> ・英語での生活科、理科社会の一部、総合的な学習等にあたる教科において日本の学習指導要領の目的及び内容に照らし合わせながらIPC(International Primary Curriculum)を使用している。教務担当教員が学習指導要領に合う単元やIPCの単元から探し、その単元をインターナショナルの教員が自身で実施することで、大きな齟齬のない指導計画及び実施が可能となっている。学習指導要領にしかない目的や内容については日本語による週末プログラムの中編成しなおす等して目的や内容、時数に不備のないようにしている。
		授業は円滑に運営できているか	<ul style="list-style-type: none"> ・1学級2担任制(インターナショナル教員と日本人教員)で実施 ・日本語指導教科は検定教科書を、英語で指導または英語と日本語で指導する教科は検定教科書とその翻訳版、その他内容に応じた副教材を活用している。 ・平日を土曜日から水曜日とし、基本的に英語で指導される教科を集中して行う。木曜日と金曜日は週末という扱いにし、日本語を中心として学習を行い、子どもたちの二言語で混乱がおきないようにしている。
	児童への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か	<ul style="list-style-type: none"> ・日本初の小学校における全寮生活であることから、入学前から保護者との連携を築き、カリキュラムへの理解を得ながら情報の共有を図った。 ・入学時点では英語力を問う試験は課さず、多様な背景を持った児童に対して教育の機会を提供している。 ・編入希望者に対しては学年相応の英語力も必要となるものの、本校での学習環境や見通しなどを説明し、本人が本校で生活し学ぶことを前向きに考え希望することを重視した。
		入学後の対応は適切か	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で日本語を母語とする児童が多く、英語のレベルを上げるのに時間がかかっているものの年々児童の適応力がついてきていると感じる。 ・英語での指示や指導を不安に感じている児童、学力的にサポートが必要な児童には、日本人スタッフを授業中に配置し、適切にサポートを受けられる体制を整えた。 ・編入の児童にはESLのクラスを受けさせるなど、英語への抵抗感を徐々に減らす努力をしてきた。
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報共有に努めているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。 ・保護者に向けての教育説明、実践報告に努めている。 ・国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。
	実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の用語や理科等の用語についての英単語を理解し、英語力の向上が見られる。 ・インターナショナル教員の英語での指示を理解し、授業に参加できている。
	その他	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業以降の児童の進路を見据え、カリキュラムの見直し、策定、実施を積極的に行っている。 ・外国籍教員及び日本人教員の研修を実施し、学習指導要領IPCのカリキュラムがうまく噛み合うようになってきている。